春の火災予防運動（3月1日～同7日）

「もういいかい　火を消すまでは　まあだだよ」

この運動は、火災が発生しやすい時期に、一人ひとりが火災予防の意識を高め、尊い生命と財産を守ることを目的としています。

家庭や地域から火災が発生しないよう、火の取り扱いにはじゅうぶん注意しましょう。

住宅防火　いのちを守る　7つのポイント

▼3つの習慣

①寝たばこは、絶対やめる。

②ストーブは燃えやすいものから離れた位置で使用する。

③ガスこんろなどのそばを離れるときは必ず火を消す。

▼4つの対策

①逃げ遅れを防ぐために、住宅用火災警報器を設置する。

②寝具、衣類およびカーテンからの火災を防ぐために、防炎品を使用する。

③火災を小さいうちに消すために、住宅用消火器などを設置する。

④お年寄りや身体の不自由な人を守るために、隣近所の協力体制をつくる。

▶防火ポスターコンクールで彦根防火保安協会会長賞を受賞した東出修弥さん（鳥居本小6年）の作品を基に作られた春の火災予防運動ポスター

住宅用火災警報器の手入れはできていますか？

全ての住宅に住宅用火災警報器の設置が義務化されてから、今年で4年目を迎えます。いざという時に、しっかり作動するように日頃から手入れをお願いします。

火災を検知するセンサーにほこりなどが付着すると、火災を感知しにくくなります。乾いた布で拭くだけでは汚れが落ちないので、布に石鹸水をよく浸し、よく絞ってから汚れを拭き取ってください。

取り替え時期

設置後10年を目安に交換をお勧めします。機種によっては電池が切れそうになると音や光で知らせる機種もありますが、故障かな？と思ったら取扱説明書をご確認ください。

平成26年中火災・救助・救急事案の発生状況

彦根市消防本部では、管内（彦根市と犬上郡）で発生した火災・救助・救急事故状況を統計にまとめ、公表しています。

●火災概要

平成26年中に発生した火災は59件で、前年と比べ8件の減少となっています（表1）。

火災の種別ごとの内訳は、「建物火災」が35件、「車両火災」が1件、「林野火災」が2件、「その他の火災」が21件となっており、その構成比については、建物火災が59%、車両火災が3%、林野火災が3%、その他の火災が36%などとなっています。

出火原因は、第1位が「放火」、第2位が「たばこ」、第3位が「たき火」の順となっています。

例年、放火と火の不始末が火災原因の上位を占めていることから、自治会などが一体となって協力体制を構築し、放火されにくい地域環境をつくる必要があります。

●救助・救急概要

平成26年中の救助出場件数は49件で、前年と同じ件数でした（表2）。救助出場の内訳は、「交通事故」27件、次いで「その他の事故」12件、「機械事故」4件などとなっています。

救急出場件数は5，387件で、前年に比べ14件増加しました（表3）。これは1日あたり約15件出場したことになります。救急車により搬送された人は5，054人と前年に比べ61人減少しました。

表1　火災

平成26年		同25年
出火件数	59	67
建物火災	35	22
車両火災	2	3
林野火災	1	0
その他	21	42
出火原因		
第1位	放火	たき火
第2位	たばこ	放火
第3位	たき火	たばこ
死者	2	2
負傷者	9	10

表2　救助

平成26年		同25年
出場件数	49	49
交通事故	27	26
機械事故	4	0
水難事故	2	7
建物事故	2	5
火災	2	2
その他	12	9
活動件数	20	26
救助人員	23	27

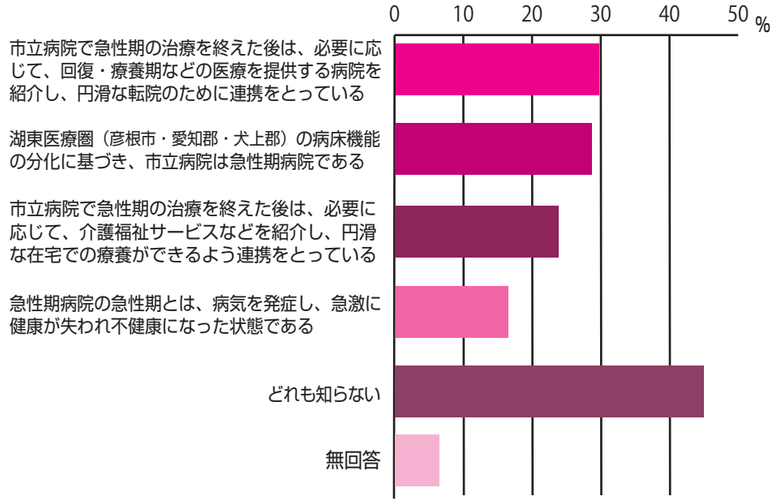
表3　救急

平成26年		同25年
出場件数	5,387	5,373
急病	3,568	3,572
一般負傷	741	686
交通事故	675	691
自損行為	77	85
労働事故	56	54
運動競技	38	37
加害	22	21
火災	15	8
その他	195	219
搬送件数	4,932	4,972
搬送人員	5,054	5,115

市立病院のあるべき将来像をさぐる
市民アンケート調査の結果③（最終回）

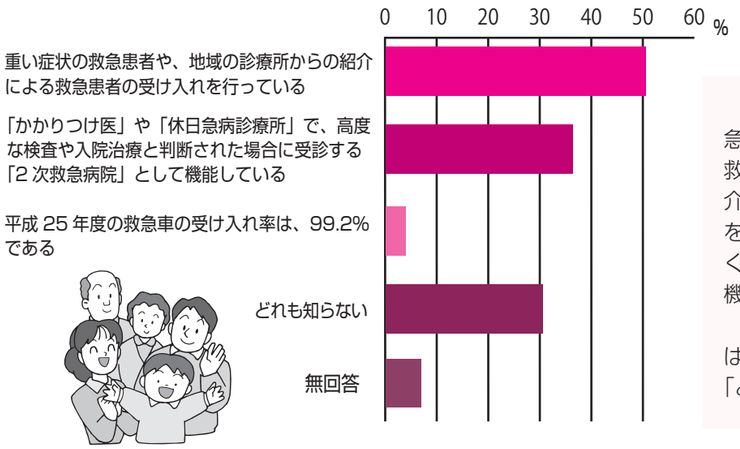
最終回の今回は、「市立病院の特徴や救急医療体制」についてお知らせします

■市立病院の特徴として知っていること（複数回答可）



市立病院の特徴については「どれも知らない」が44.9%と最も多くなっています。知っている特徴は、円滑な転院のための連携に関する項目で29.6%と最も多くなっていますが、いずれも3割を下回っています。

■市立病院救急医療体制について知っていること（複数回答可）



湖東医療圏の彦根市立病院の救急医療体制については「重い症状の救急患者や、地域の診療所からの紹介による救急患者さんの受け入れを行っている」が50.5%と最も多く、次いで、2次救急病院としての機能についてが36.3%でした。

救急車の受け入れ率が高いことはほとんど知られていません。また、「どれも知らない」は約3割でした。

今回、実施したアンケート調査では、「地域医療連携に関すること」や「当院の良い点・悪い点」「当院の特徴や、救急医療に関すること」、さらに「自身が考える医療や人生の最後に関すること」を柱に19の調査項目を設定し、回答をいただきました。

その中で、市民の皆さんと優先的に共有したいと考えた7項目についての結果を抜粋し、2月1日号から3回にわたって報告しました。

当院では、職員がアンケート調査結果を共有したことで、日々の業務で得ることができなかった課題に気づきました。さらに「どのような病院であれば安心いただけるか」を、市民の皆さんと一緒に考える意識の向上につながっています。

病院を取り巻く環境は「医師不足」「看護師不足」などにより厳しい現状となっていますが、病院職員が一丸となり、この地ならではの当院のあるべき将来像を求めていきます。

※調査の全容は、3月中旬頃に当院ホームページに掲載します。

問い合わせ先　市立病院地域医療連携室☎22-6050番　内線1256番